

Wish

Vol.21
February 2022

Contents

脳研究における
ブレインバンクの役割

うつにも色々

認知症の人の財産は
どうやって管理するか

皆さまからの声

予告

2022年
3月18日より

第21回市民講演会をNCNPチャンネルで配信します

「**脳が身近になる話**」
～NCNPブレインバンクより～

NCNP Channel 検索



脳研究におけるブレインバンクの役割

ブレインバンク脳神経内科 医師 佐野輝典

21世紀は脳の世紀と言われ、脳研究の進歩はめざましいものがありますが、まだまだ未解明なことが多く残されています。脳研究の進歩にはヒトの脳そのものを直接研究することが重要です。ブレインバンクの役割は研究のため死後脳を保管することで、もう少し詳しく3つに絞ってお話します。

●解剖された脳の病理診断を行う

保管されている脳それぞれがどのような疾患を持つか、病理診断が必要です。ホルマリン保存脳から病理標本を作製し顕微鏡観察して診断します。特に、蓄積している異常蛋白質の種類から脳神経内科の変性疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー型認知症など）を診断しています。

●脳を保存する

病理診断時のホルマリン保存脳でも長期の保存はできますが、これでは研究に使用するには不十分です。凍結保存することで、遺伝子、蛋白質やその酵素活性を保てます。凍結保存された脳試料が、分子生物学、生化学、薬理学的な研究に活用することができます。

●保存された脳試料を研究者に提供する

研究者からの要望に基づき（ある疾患の研究を行いたいとか、疾患のない正常な脳をという要望もあります）、研究者に提供します。

ブレインバンクから提供された脳により行われる研究が、治療法開発さらに精神疾患の解明につながっていきます。

うつにも色々

ブレインバンク精神科 医師 水谷真志

うつというと、どんなイメージがあるでしょうか。年中寝たきりで起き上がれないとか、他人の言葉に過敏に傷ついて活動できなくなってしまうとか、色々ありますね。一言でうつと言っても原因は様々なのです。

うつの原因を考えるとときには、よく「器質性」、「内因性」、「心因性」といった分類をします。

器質性のうつとは、脳挫傷や脳卒中といった大きな「脳のケガ」で脳がどうしてもうつになりやすくなってしまふパターン。よく「器質性気分障害」などと言ったりします。

心因性のうつとは、脳そのものは健康なんです、置かれた環境や体験に脳が耐え切れず、正常な反応の結果心が摩耗していくというパターンです。PTSDや適応障害によるうつはどちらかと言えばこれに分類さ

れます。

では内因性とは？実はこの定義が難しいです。心因性や器質性とは違うが、なぜかうつになってしまう…これを、「うつ病」と呼びます。実は内因性が原因でうつ（或いは「うつ状態」といいます）になる病のことを特に「うつ病」と呼ぶのが一般的であり、なのでPTSDや適応障害、或いは認知症からうつになるケースではあえて「うつ病」という言葉を使わないことが多いです。

今回はうつの分類法を紹介しましたが、どれに分類すべきか分からないものも沢山あります。アルコール依存によるうつ、産後のうつ、慢性的な不眠によるうつなど…そのメカニズムは分かっていないことだらけ。やはり、更なる研究が望まれるのです。

認知症の人の財産はどうやって管理するか

病院臨床検査部 医長 大平雅之

認知症患者さんの介護のなかで、「入院費用を支払わなければならないのに本人の預金が使えない」「公的なサービスを利用したいのに、当の本人が契約を理解できない」などといった、介護そのものとは異なる難しさをご家族から伺うことがあります。そんな時に準備されている制度が日本にもあります。

認知症に限らず、知的障害、精神障害などの理由で判断能力の不十分な方々を保護し、支援する制度に成年後見制度というものがあります。

この制度には、家庭裁判所が個々の患者さんの状況に応じて代理人=本人の代わりに契約などを締結することができる人（成年後見人・保佐人・補助人とい

ます）を選び、代理人の権限も基本的に法律で定められている法定後見制度と、本人が任意後見人となる方やその権限を自分で決めることができる任意後見制度があります。

注意したいのは、任意後見制度は、将来、自分の判断能力が不十分となったときに備えるための制度なので、ご自身がその判断ができる段階で契約をすることが前提になっています。また、いずれの制度もメインの目的は財産の管理なので、例えば入院中の手術の同意を代わりにしてもらうなどの目的では使えません。これらの制度の良いところ、悪いところを知りながら、うまく使っていききたいものです。

皆

さ

ま

か

ら

の

声

Q

献体、臓器提供、アイバンク、ブレインバンクへの献脳、すべてに登録することはできますか？

A

ブレインバンク以外にも役立てることがないかと検討される方からのご質問が増えていきます。それぞれについて簡単にご説明します。

1. 献体

献体は医学教育のために大学の解剖教室などへ提供するものです。献体は脳を含む体全体の提供が基本となっておりますので、献体とブレインバンクへの献脳（ブレインバンクに対して死後に脳を提供していただくこと）を同時に行う事は出来ません。

なお、献体される場合は、葬儀のあとにご遺体は大学へ運ばれます。ご遺骨がご遺族に返還されるまでの期間は、普通は1～2年、長い場合は3年以上かかることがあります。献体をご希望の場合は、各大学の白菊会などにお問い合わせ下さい。

2. 臓器提供

臓器提供には、亡くなった人からの「脳死後の臓器提供」、「心臓が停止した死後の臓器提供」、そして健康な人からの臓器提供（生体移植）の3つの方法があります。臓器移植は、病気や事故によって臓器が機能しなくなった人に、他の人の健康な臓器を移植して、機能を回復させる医療です。「脳死」、あるいは「心停止」によって、提供できる臓器は異なります。臓器を提供する場合、臓器提供適応基準では、おおよそ心臓50歳以下、肺70歳以下、腎臓70歳以下、膵臓60歳以下、小腸60歳以下が望ましいとされています。この年齢を越えた方でも、医学的に提供が可能である場合もあります。

皆

さ

ま

か

ら

の

声

3. アイバンク

死後（心停止、及び脳死後）、眼球を提供していただき、角膜移植待機患者にあっせんする公的機関をアイバンクといいます。年齢制限はありません。

4. ブレインバンク

亡くなられた方に病理解剖を行い、脳組織などを摘出し保存します。脳の寄託を希望される方と疾患研究者との仲立ちをし、実際の脳を対象に研究を行う機会を増やすことで、未来の医学の発展に貢献します。20歳以上の方を対象としております。

5. ブレインバンクとの同時登録は可能か

1. のとおり、献体とブレインバンクを同時に登録することは、その性質上、できませんが、それ以外の臓器提供、アイバンクはブレインバンクと同時に登録することは可能です。その場合、ご遺体から脳を摘出した後に、お身体は家族の元に戻ります。その後、通夜や葬儀など大切な方々との時間を過ごしていただけます。全てをご希望通りにできるかどうか、お亡くなりになられる時の状況によるところもあります。いずれの登録を優先されるかについて、ご家族とご相談されるとよいと思います。

参考

公益財団法人 日本篤志献体協会 HP www.kentai.or.jp

公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク HP <http://www.jotnw.or.jp>

公益財団法人 日本アイバンク協会 HP www.j-eyebank.or.jp

Q

登録者が亡くなった時の手続きについて、家族に説明してもらえますか？

A

はい、ご連絡いただけましたら、面談やお電話での説明や、ハンドブックをご家族あてに送るなどの対応をしております。病理解剖の前に文書による同意をご家族にいただくことや、病理解剖を行う施設へのご遺体の移送はご家族側に手配していただく（葬儀社などにご依頼いただいております）ことなどをご家族へ説明いたします。その他ご質問にお答えしますので、お気軽にご相談ください。

事務局より

こんにちは。ブレインバンク コーディネーターをしております、佐藤です。事務局からは身近な話題を届けたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

NCNPブレインバンク事務局は東京都小平市にありますので、まずは小平をご紹介します。『都会から一番近いプチ田舎』と市が紹介していますが、畑や果樹園が多くあり、街道沿いには保存樹木の指定を受けた大

きな樹木が残っています。樹木が多くある環境からか、都心ではあまり見ることのない鳥を見ることができます。遊歩道を歩いていると、ブルーグレーの羽に黒い尾が美しいオナガを目にすることがあります。春先にはシジュウカラのさえずりがよく聞こえ、初夏になるとカッコウの声を聞くこともあります。秋にはオレンジ色のモズを見かけ、庭の木に早贄を見つけてビックリすることもありました。

東京都ですが、のどかな場所からお届けしております。これからもどうぞよろしく願いいたします。



お問い合わせ資料のご請求はこちら

NCNPブレインバンク事務局 <http://www.brain-bank.org>

187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1 国立精神・神経医療研究センター内
TEL : 042-346-1868 Email : info@brain-bank.org

